

# 軌 跡

1人1人の

想いが繋がった

5年間の記録

特定非営利活動法人

福島県の児童養護施設の  
子どもの健康を考える会



## 五周年記念誌 発刊に寄せて

児童養護施設とは「様々な事情により親の養育を受ける事ができない子ども」が生活する場所です。福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会は、東日本大震災から約一年後の二〇一二年四月に福島事務所を開設し、二〇一二年十月にNPO法人となりました。

それから約五年が経ちました。原発事故・放射能の影響については、科学的事実すら情報が錯そうしています。模索しながらの五年間でした。

本会の小さな働きを支えてくださったみなさまへ、心からの感謝をこめて、これまでの活動を振り返る冊子を作りました。

お一人一人の思いがとなり、活動となつて積み重ねることができました事に、改めてお礼を申し上げます。

NPO法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

共同代表 澤田 和美 丸 光恵



目 次

プロローグ

第一章 NPOができるまで～二〇一四年まで

第二章 健康手帳

第三章 これからの活動

附章 活動年表

助成金獲得実績

施設と協力者のマッチング実績

ご協賛いただいた団体

61	60	58	51	45	27	11	5
}		}	}	}	}	}	}
67		59	57	50	44	26	10



プログラム

二〇一一年三月十一日東日本大震災

そして、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生。

未曾有の事態に、「私に何が出来るのか？」を誰もが問うたと思います。

二〇一一年八月、福島県福島市の児童養護施設 青葉学園で施設長 神戸信行先生を澤田和美が訪問しました。

事故当時、児童養護施設は福島県内に八施設ありました。

入所していた子どもは二歳から十八歳までの約四五十人。

児童養護施設への入所は県からの措置であり、子どもが自分で施設を選ぶ事はできません。

「災害時でも親が迎えに来ないのは児童養護施設の子どもだけ。」

「どのような非常事態でも保護するのは施設職員なんですよ。」



2011年9月 青葉学園玄関

「ホットスポット」

放射線量が多い場所はこう呼ばれるようになりました。

外遊びは危険。子ども達は屋内で遊ぶように促されます。

「子どもの成長発達にとって必要不可欠なものは、親の愛情と自然と大地に触れ草木花を知り、自分の存在がゆるぎないものであることを確信すること。」

「原発事故により、それがふたつとも失われた。」



2012年5月 福島愛育園 園長室から見える放射線量  
モニタリングポスト



# 第一章 NPOができるまで～2014年まで

## ホットスポットを見つけ出して対策をとる

子ども達が生活する場所にホットスポットがあるかもしれない。

企業や有志の協力を得て、施設の職員と一緒に、園庭、通学路、室内の隅々まで放射線量の計測を行いました。

線量が高いところは汚染土を取り除いたり、洗浄する除染作業、コンクリートで遮蔽する工事、建て替え工事などが必要でした。



園庭にある防油堤を表面汚染計で測定すると異常に高い  
最も安全な策を講じてコンクリート壁の建て替えを行った

## 子ども達の被曝量の測定

職員が線量計を身につけて計測してみました。

子どもと一緒に走ると値が狂ってしまったたり、電池が途中で切れると数字が消えたりとトラブルもあり、正確に測れる方法を模索しました。

計測が大事であることを確認しながら、青葉学園、愛育園、いわき育英舎で今も測定を続けています。

精密機器は校正も必要で、正しい値を示さないときは買い換えすることもありました。

二〇一六年にはカラフルな高性能機種に一新し、計測もしやすくなりました。



## 食品放射能測定

給食に使われる食材に放射性物質はどれくらい入っているのでしょうか？

青葉学園は、二〇一二年三月にヨウ化ナトリウムシンチレーション検出器による食品放射能測定を独自に開始しました。

保護者の不安の高まりに応えるため、二〇一一年度末には福島県内の一部で学校給食の食品放射能測定が開始されました。

児童養護施設は後まわしの状況でした。

半年後、ようやく希望する施設には福島県から測定器が貸与されました。

正確に食品放射能測定をするには、環境放射線をコントロールするための測定室を確保することが必要でした。

※測定室設置の費用を賄うため、施設と支援団体のマッチングを行いました。（附章参照）



左：食品放射能測定器

右上：測定のためにマリネリ容器に入れた食品

右：測定結果の映っているパソコン画面



左：室内の環境を測定して内装工事を追加

右：測定室

## 放射線の被曝量はどのくらい

大気や飲食物と一緒に体内取り込まれた放射性物質（セシウム）による被曝を調べることにしました。尿の中の放射性物質から内部被曝の量を推計します。

検査には子どもでも尿を2リットルもペットボトルに貯めなくてはなりません。まず希望する職員からはじめ、子どもがトイレに行く毎に尿をためられるよう職員が介助し、説明書を作る、オムツでとるなど、工夫をしました。

検査結果は、ゼロという数値はなく、セシウムが検出されたか、検出下限以下かという判定でした。

セシウムが検出された人には、検査前の生活を振り返りながら、次回の検査までの間の、食生活などの改善方法を一緒に考えました。



尿を 2 リットルのペットボトルに貯めて検査に提出

## 取り残される子ども達

福島県の県民健康調査の被曝モニタリング検査案内は、住民票を基に郵送されます。

福島県では入所児童の住民票は児童養護施設に移せないため、児童養護施設の子どもには調査の案内が届きませんでした。

検査案内が届くのをいつまでも待ってられない。

外部被曝量を測定するために、個人線量計（クイクセルバッジ）を大至急で手配しました。

甲状腺エコー検査用の超音波診断装置も廉価で購入しました。



## 勉強会

子ども達へ健康を守る方法を伝えられるのは、子ども達を一番よく知る児童養護施設の職員です。

まずは、勉強会を半年に1回開催しました。

食品や飲料水に含まれる放射性物質による内部被曝の予防を学ぶための「栄養勉強会」、各方面の講師を招き、みんなで学びました。

栄養士、調理師、看護師をはじめ多くの職員の皆様にご参加いただきました。



2014年10月 第4回栄養勉強会

## 児童養護施設で働く看護師

児童養護施設で働く看護師の協力を得て、検査を実施してきました。

看護師は、全ての児童養護施設に配置されているわけではなく、配置されていても一施設に一人で孤軍奮闘しています。

二〇一三年五月に、全国の児童養護施設を対象に「看護師に求められている役割」について、アンケート調査をしました。

児童養護施設の中で他職種が看護師に期待する事、また看護師が直面している課題や悩みについても明らかにしました。

※調査結果は学会発表し、ホームページでも公開しています。



季刊「児童養護」に調査結果の一部を掲載



## 第二章 健康手帳

## 放射線の健康への影響

放射線は成長期の子どもほど影響を与えられています。

放射線被曝に関連する検査はたくさんあります。

工コ―検査（甲状腺がん）、尿中セシウム検査（内部被曝）、個人線量計（外部被曝）、市町村が実施しているホールボディカウンタによる内部被曝の推定などです。

もし健康被害が起きたら、保障を受けるためには原発事故当時の住まいがどこであるかを、子どもが説明できるようにしておくことも必要です。

これらの結果をまとめて記録に残さねばならないと考えました。

## 健康手帳の作成に向けて

児童養護施設の子ども達のおよそ三分の一が、喘息などの慢性疾患や障がいがあり、病院を定期的に受診しています。

しかし、母子手帳を持っていない子どももいます。

健康に関する記録を一冊の健康手帳にまとめておこうと話しました。

母子手帳にある予防接種記録、身長・体重などの成長発達、そして学校健診の結果。入所中の病院の受診、アレルギー等の検査、服薬中の薬などの記録も入れました。

二〇一三年三月に「健康手帳（暫定版）」を作りました。

## 健康手帳の完成

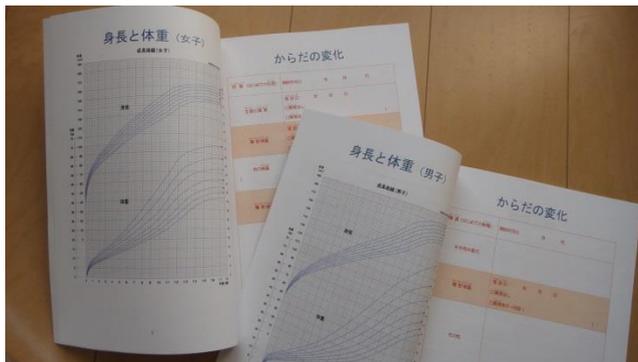
二〇一四年、男女それぞれ二種類、検査結果の用紙を貼り付けやすいA4版拡大サイズの健康手帳を作成しました。

大切に保管してもらえるように、ノートカバーを付けました。県から送られて来た県民健康管理ファイルに、一緒に綴じてくださる施設もありました。

二〇一三年三月は二施設の六名、

二〇一四年三月には新たに三施設、

合計五施設の二十二名の卒園生に「健康手帳」を贈呈することができました。



2014年3月には健康手帳(暫定版)を改訂  
男子版と女子版

## 子ども達にとっての健康手帳の意味

児童養護施設では、これまで身体や健康に関する記録は子どもに渡していませんでした。

生い立ちの記録として、卒園時に健康手帳を渡すことは別の意味もあります。「施設で大切に育てられてきた、という証にもなる。」「健康の記録をまとめることは、自分史をふりかえるライフストーリーワークの一つとなる。」神戸信行氏（青葉学園前園長）は、健康手帳の構想段階から強く支持してくれました。

私たちには予想もつかないところで、思いがつなりました。



2016年2月健康手帳の活用法を卒園生に説明

## 卒園した若者へ

既に卒園した子どものところへ元の担当職員が訪問し、自立後の生活を確認しながら、健康手帳を贈り、健康管理の大切さについて説明してくださいました。

「今回の訪問では食生活、健康、金銭面などのアドバイス、衣類の補充等ができました。健康手帳を贈る訪問で、日頃のメールや電話では埋められないことができたと思います。」

卒園生からお礼状が届きました。

「健康手帳を受け取りました。自分は病院に通院する機会がしばしばありますので、有効活用できたらよいと思います。自分がいつどこで、どのような治療を受けたのかが一目でわかりますので、自分の健康管理をするにはうってつけでしょう。」

## 紙媒体の健康手帳の限界

健康手帳を紛失したら？

同じものは2つありません。

施設にデータは残っていないので再発行もできません。

健康手帳に記すデータを電子化システムに入力しておけば「健康手帳」として印刷できます。

そして成長と健康の記録が施設に残ると考えるようになりましたが、ソフトウェアの開発には、莫大な費用がかかります。

支援してくれる団体は見つからずにいました。

## 日本ルーテル教団との出会い

日本ルーテル教団東日本大震災支援対策は、児童養護施設の子どもだからこそ「健康手帳」を持つことの意義があることを理解してくださいました。

ソフトウェア開発に加え、児童養護施設に設置する健康手帳専用のノートパソコンやプリンターのご支援を頂きました。

全国児童養護施設協議会、第十回西日本児童養護施設セミナーでの寄付金、「タケダいのちとくらし再生プログラム」、そして多くのみなさまからのご寄付。頂いたご支援は全て施設への導入、機材の整備、保守点検費用となりました。一つずつ積み上がり、大きな事業となっていきました。



健康手帳電子化システムの導入説明

## 日本パートナーシップ大賞

健康手帳ソフトウェアの開発過程で福島の実業である福味商事による開発、日本ルーテル教団と一緒に各施設を訪問して健康手帳の意義を確認。資金援助だけではない協働をしたことが評価されました。

二〇一五年二月。

NPOが企業と協働することを推進してきた日本パートナーシップサポートセンター主催の「第十一回パートナーシップ大賞 優秀賞」を受賞しました。



NPO、企業、児童養護施設、日本ルーテル教団、4者の協働契約関係を締結して健康手帳電子化システムを7児童養護施設に導入

## すこやか日誌の開発

児童養護施設では日々の子どもの生活などを多くの記録しています。

健康手帳は別のシステムであるため、二回同じ入力をする必要が出てきました。既に生活記録を電子化していた施設では、いったん導入した健康手帳電子化システムを引き上げることになりました。

これを契機に、健康手帳電子化システムに拡張機能を追加しました。一つのシステムで子どもの情報、毎日の生活、支援方針、医療と保健の記録を管理できるようになりました。

※健康手帳電子化システムは「すこやか日誌」として、現在、福島県外の施設でも使えるソフトウェアとなっています。



健康手帳電子化システムの意義を説明



すこやか日誌の説明会は施設職員全員の参加、各施設で複数回実施

## 二〇一五年以降の検査

子ども、職員、そして卒園した若者を対象にした甲状腺エコー検査は二〇一七年十月までに、県内五施設のべ八百名が受診しました。すべて子どもが慣れ親しんでいる施設内で検査をしています。

尿中セシウム検査、県内六施設で約二百二十件（再検査を含む）。

ポケット線量計では、子どもたちが住むホームごとに毎日測定。個人線量計は、必要な子どもと職員に併用して測定。

これらの結果はすべて健康手帳電子化システムに入力して、将来、記録として活用できるようにしています。



健康手帳を大切に保管してもらえるように工夫を重ねる  
バンドエイドや体温計と共に贈る  
体温計には甲状腺エコー検査を受けるように促すロゴ



## 第三章 これからの活動

## 誰一人取り残さないで

児童養護施設の子どもや卒園生は、公的支援の届きにくい、社会的に不利益な立場にいます。

復興や帰還という前向きな言葉から取り残されている子どもや若者がいることを忘れてはいけないと思っています。

原発事故のせいで、何が起きているの？

なぜ検査をするか？

どうしたら被曝を避けられる？

施設内での甲状腺検査のときに、子ども達に働きかけていきます。

虐待を受けた子どもや、その影響で発達障がいをかかえる子どももいます。

工夫した教え方を編み出していきたいと考えています。

卒園した若者との繋がり ―アフター・ケア(自立支援)―

二〇一一年三月、原発事故直後に卒園した若者は既に二十五歳。

十分な収入を得られる安定した職はなかなかありません。

自分の将来の健康よりも、毎日の生活や人間関係を維持する事に精一杯という若者もたくさんいます。

里帰り検査、施設に帰って検査を受けることは、医療保険に加入していない若者の健康相談や、異常をいち早く見つけて治療に導くきっかけになります。精神的にも大きなメリットがあります。

卒園した若者の定期検査をおこなう計画をしています。

これまでご支援いただきましたみなさまへ心より感謝申し上げます。

小さな働きですが、それを助けていただく皆様との繋がりによって子どもや職員が必要とすることを具体的な形にすることができました。

頂いたご寄附・ご支援は、児童養護施設の子ども達や職員のために大切に使っています。

放射性物質の影響は、科学的には解明されていません。健康被害が出ないことを願いつつ、長期的な支援が必要と感じています。

これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



冬の吾妻小富士と吾妻連峰



# 附 章

## 活動年表

### ●福島事務所開設前

#### 2011年

8月	15日 児童養護施設「青葉学園」(福島市)訪問 被曝対策、除染の状況についてヒアリング
9月	29日 青葉学園 子どもの育ちを支える会 第9回 研修会「東日本大震災と子どもへの支援と課題」および「原子力発電所の事故に関わる緊急時の対応マニュアル」作成懇談会に参加 青葉学園 看護師から児童養護施設の看護師業務に関するヒアリング
10月	「青葉学園」の除染費用を支援する募金活動を開始

#### 2012年

1月	福島市内2 児童養護施設でのヒアリングの継続、看護師が就業している施設に協力を得て、看護職としての立場からのアプローチを検討開始
2月	任意団体「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」を設立
3月	ニュースレター1号発行

### ●福島事務所開設後

#### 2012年

4月	福島市野田町に事務所開設 尿中セシウム検査（職員・子ども対象）：青葉学園にて開始し以後継続 検査結果の説明とともに、生活状況の把握を基に改善に向けてのカウンセリングを実施 ドナーとのマッチング；内装工事、補強工事を含む食品放射能測定室設置（2013年2月までに合計4施設）
5月	個人被ばく量測定：ポケット線量計による小規模ホームごとの測定開始
6月	特定非営利活動法人認可申請 尿中セシウム検査（職員・子ども対象） 福島愛育園（2施設目） 開始し以後継続 ニュースレター2号発行
8月	個人被ばく線量測定：クイクセルバッジの着用 青葉学園・福島愛育園で開始
9月	第1回 施設毎の勉強会：放射線に関する職員向け勉強会開催（堀川愛生園）

## 2012年つき

10月	4日 特定非営利活動法人 登記完了 ニューズレター3号発刊 屋内外の放射線量測定：パイロット事業として青葉学園にて（株）サードウェーブに委託し、表面汚染計を用いて測定 合計4施設実施 ドナーとのマッチング：青葉学園 ホットスポットの線量低減化のための改修工事資金（国際大使婦人機関等）
11月	2012年度 第1回理事会 開催 福島市内児童養護施設 看護師交流会開催
12月	超音波診断装置を購入、甲状腺エコー検査 開始：福島愛育園 尿中セシウム検査（職員対象）：堀川愛生園（3施設目）開設し以後継続、青葉学園・福島愛育園 継続実施

## 2013年

1月	「放射性物質、健康手帳等に関する勉強会」を開催（青葉学園）
2月	2013年度第1回理事会、2013年度定時総会（第1期）開催 甲状腺エコー検査：福島愛育園、いわき育英舎
3月	健康手帳（紙版 暫定版）贈呈：青葉学園・福島愛育園の卒園児6名 尿中セシウム検査（職員・子ども対象）：いわき育英舎（4施設目）開設し以後継続 ニューズレター4号発刊
4月	ホームページの本格運用開始
5月	「児童養護施設の看護師の現状と役割」に関する全国調査を実施 ドナーとのマッチング：福島愛育園 通学路除染（5月から8月まで月1回合計4回）
6月	健康手帳電子化システム構築のためのヒアリング開始
7月	2013年度 第2回 理事会 甲状腺エコー検査（職員・子ども対象）：青葉学園（3施設目） 第1回 栄養勉強会「原発事故と放射能汚染・食品測定の実際」（講師：丸 共同代表）
8月	ドナーとのマッチング：福島愛育園 放射線対策コンクリート基礎のり替え工事 ニューズレター5号発刊
10月	甲状腺エコー検査（職員・子ども対象）：いわき育英舎 第2回 栄養勉強会「低線量被曝と人体への影響」（講師 高木学校 崎山比早子氏） 第1回 看護師勉強会（東北ブロック 5施設から看護師が参加）

## 2013年つき

11月	2013年度 第3回 理事会、2013年度 第1回 臨時総会 ランチョンセミナー（施設長勉強会）「低線量被曝の長期的影響—健康手帳との関連—」（講師：丸共同代表）
12月	ニューズレター6号発刊

## 2014年

1月	健康手帳電子化システム ソフトウェア開発 開始
2月	2014年度 第1回 理事会、2014年度 定時総会(第2期) 尿中セシウム検査（職員・子ども対象）：白河学園（5施設目） 甲状腺エコー検査（職員・子ども・卒園生対象）：福島愛育園 卒園生に交通費補助。検査結果を健康手帳と共に贈呈
3月	健康手帳 贈呈：2013年度紙版 5施設の卒園生 22名
4月	ニューズレター7号発刊
5月	健康手帳電子化システム 児童養護施設長説明会
6月	2014年度 第2回 理事会
7月	甲状腺エコー検査（職員・子ども・卒園生対象）：青葉学園 卒園生に交通費補助 第3回 栄養勉強会「食品の放射能を測るということ」（講師 NPO法人ふくしま30年プロジェクト） 第2回施設ごと勉強会「放射線に関する勉強会」（福島愛育園）（講師 澤田共同代表） 季刊「児童養護」45巻1号（38頁～41頁）に「児童養護施設に勤務する看護師に求められる役割」が掲載 健康手帳電子化システム テストラン開始（青葉学園、福島愛育園）
8月	ニューズレター8号発刊
9月	甲状腺エコー検査（職員・子ども対象）：堀川愛生園（4施設目） 健康手帳電子化システム：児童養護施設6施設で本格運用開始
10月	第4回栄養勉強会（NPO設立2周年記念講演会）「児童養護施設の子どもたちを被曝から守るために—私たちにできることを具体的に知ろう！—」（講師 立命館大学 名誉教授 安斎 育郎氏） 2014年度 第3回 理事会

## 2014年つづき

10月	ホームページ 英語版新設
11月	甲状腺工コ-検査(職員・子ども対象) : いわき育英舎 卒園半年後、元担当職員が訪ねて卒園後の生活をフォローしながら「健康手帳」を手渡す事業を開始
12月	ニュースレター9号発刊

## 2015年

2月	2015年度 第1回 理事会、2015年度 定時総会(第3期) 総会記念講演会「児童精神科のトレンド-子どもの脳の発達と心の発達-」 (講師 塩飽 仁 副代表) <b>福味商事株式会社 宗教法人日本ルーテル教団と共に第11回日本パートナーシップ大賞 優秀賞を受賞</b>
3月	健康手帳 贈呈(紙版健康手帳と電子化システムから印刷された健康手帳) : 卒園生・家庭引き取り22名(3施設) 第3回 施設ごと勉強会「発達障がいに関して」(講師 塩飽 仁 副代表) (いわき育英舎)
4月	健康手帳電子化システム : 児童支援記録拡張機能付きの開発を開始
5月	尿中セシウム検査(職員・子ども対象) : 会津児童園(6施設目) 開始し以後継続
6月	ニュースレター10号発刊 2015年度 第2回 理事会
9月	健康手帳電子化システム 拡張機能付(ソフトウェア「すこやか日誌」) テストラン開始 甲状腺工コ-検査(職員・子ども・卒園生対象) : 福島愛育園 卒園生に交通費補助 食品放射能測定(7日間)・尿中セシウム検査の同時実施 : 青葉学園
10月	新設の児童養護施設 森の風学園 初訪問 甲状腺工コ-検査(職員・子ども・卒園生対象) : 青葉学園 卒園生に交通費補助
11月	2015年 第3回 理事会 甲状腺工コ-検査(職員・子ども対象) いわき育英舎
12月	ニュースレター 11号発刊

## 2016年

1月	2016年 第1回 理事会、2016年度 定時総会(第4期) 4年間の活動報告と音楽会(ゲスト: 音楽家 丸尾めぐみ) 開催
2月	書籍「広がる協働-第11回日本パートナーシップ大賞事例集-」が発刊される「福島の子どもたちを被曝リスクから守れ! 児童養護施設のための健康管理ソフトの共同開発」出版
3月	健康手帳 贈呈: 52名 【内訳】 紙媒体: 5名(1施設)、電子化システムから印刷された健康手帳: 卒園生 31名(5施設)・家庭に引き取り児童 16名 体温計とバンドエイドを「健康手帳」と一緒に贈呈開始 「健康手帳」贈呈時に健康教育と放射線教育を卒園生 5名に実施 (福島愛育園)
4月	食品放射能測定・尿中セシウム検査の同時実施 福島愛育園
5月	第4回施設ごと勉強会「発達障がいを持つ子どもの特徴と対応方法」(堀川愛生園)
6月	ニューズレター 12号発刊 2016年度 第2回 理事会 健康手帳電子化システム拡張機能付きをソフトウェア「すこやか日誌」: 福味商事が製品化、東北ブロック児童養護施設研究協議会で紹介
7月	「すこやか日誌」紹介: 岩手県内の児童養護施設 以後、全国の施設で紹介
10月	2016年度 第3回 理事会 甲状腺エコー検査(職員・子ども・卒園生対象): いわき育英舎 卒園生に交通費補助
11月	「すこやか日誌」紹介: 「児童養護施設の医療的ケアの研修会」(福岡 和白青松園主催) 同研修会にて児童養護施設看護師との交流会に参加
12月	ニューズレター 13号発刊 すこやか日誌(健康手帳電子化システム児童支援記録拡張機能付き) 導入完了: 福島県内6施設

## 2017年

1月	甲状腺エコー検査(職員・子ども対象): 会津児童園(5施設目) 開始
2月	2017年度 第1回 理事会、2017年度 定時総会(第5期) 甲状腺エコー検査(職員・子ども対象): 堀川愛生園

## 2017年つづき

3月	健康手帳 贈呈：48名【内訳】卒園生29名(7施設)、措置変更や家庭ひきとり児童8名、アフターケアとして既に卒園している児童11名(2施設) 施設訪問の上、健康手帳はバンドエイド、体温計と共にポーチに入れ贈呈 研修会「発達障がいを持つ子どもの特徴と対応方法・健康手帳への記載方法」(講師 塩飽仁 副代表)
4月	甲状腺エコー検査(職員・子ども対象)：会津児童園
6月	ニューズレター 14号発行 2017年度 第2回 理事会
7月	第5回施設ごと勉強会「発達障がいを持つ子供の特徴と対応方法 part2」(講師 塩飽仁 副代表) (福島愛育園) 福島県内の児童養護施設の看護師研究会の準備を開始する
9月	甲状腺エコー検査(職員・子ども・卒園生対象)：福島愛育園 卒園生に交通費補助
10月	甲状腺エコー検査(職員・子ども・卒園生対象)：青葉学園 卒園生に交通費補助

## 2017年12月時点の継続事業

### A. 健康手帳作成事業

- ①健康手帳電子化システム拡張機能付き「すこやか日誌」を6施設に導入運用中
- ②健康手帳電子化システム単体を1施設で導入運用中
- ③紙媒体の健康手帳を卒園生に贈呈(システム未導入施設)

### B. 内部被曝のモニタリング検査

- ①甲状腺エコー検査：5施設の子ども・職員を対象に、隔年実施(県民健康調査の甲状腺検査が実施されない年度)既に卒園した若者が検査を受けやすいよう、施設へ来園するための交通費を補助
- ②尿中セシウム検査：6施設で実施し、検出下限を超えた対象者に継続実施。

### C. 外部被曝のモニタリング検査

- ①個人被ばく線量測定サービス(長瀬フンダウア ルミネスバッジ)：1施設で継続実施
- ②ポケット線量計による小規模ホームごとの測定：3施設で継続実施

# 助成金獲得実績

## 2012年

- 日本小児看護学会 災害支援助成金：健康手帳プロジェクト、看護師交流プロジェクト
- 鶴田くに奨学基金ビヨンドXプロジェクト：ポケット線量計購入費用
- 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会：  
超音波診断装置による甲状腺の大きさ確定検査、検査体制整備十画支援、  
児童養護施設 個人被ばく線量測定サービス着用支援

## 2013年

- 日蓮宗 あんのん基金：内部被曝のモニタリング（尿中セシウム検査）事業
- サントリー・SCJ 福島支援 NPO 助成プロジェクト フクシマスムファンド：  
福島県の児童養護施設の健康
- 地球と暮らしを考える会・高山：放射線測定器一式購入費用
- タケダいのちとくらし再生プログラム：  
福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握
- 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会：  
超音波診断装置による甲状腺の大きさ確定検査、検査体制整備十画支援  
個人被ばく線量測定サービス着用支援、事務所職員人件費支援

## 2014年

- 宗教法人日本ルーテル教団 東日本大震災対策：健康手帳電子版の開発支援、機材導入
- 全国児童養護施設協議会・第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会：  
健康手帳電子化システム施設導入支援
- 認定 NPO 法人市民活動センター神戸「選べる！福島応援寄付」：  
福島の子どもの健康を見守ろう（甲状腺エコー検査）
- フクシマスムプロジェクト福島子ども支援 NPO 助成：  
福島県の児童養護施設の健康
- タケダいのちとくらし再生プログラム：  
福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握
- 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会：  
超音波診断装置による甲状腺の大きさ確定検査、検査体制整備十画支援、  
個人被ばく線量測定サービス着用支援、事務所職員人件費支援

## 2015年

- 公益財団法人公益法人協会 草の根組織応援基金
- 宗教法人 日本ルーテル教団 東日本大震災支援対策：  
健康手帳電子化システムおよび拡張版開発支援、健康手帳等電子化システム機材導入経費
- 全国児童養護施設協議会・第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会：  
健康手帳電子化システム施設導入支援
- タケダ・いのちとくらし再生プログラム：  
福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握 フェーズ2：  
低線量被曝モニタリング検査とデータ蓄積のための健康手帳電子化システム拡張版開発と普及
- 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会：  
超音波診断装置による甲状腺の大きさ確定検査、検査体制整備十画支援（第2期）、  
個人被ばく線量測定サービス着用支援（第2期）、児童養護施設の尿中セシウム検査実施

## 2016年

- 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業(WAM 助成)：  
児童養護施設受入者への健康手帳贈呈事業
- ふくしま HOPE プロジェクト：甲状腺エコー検査実施事業
- 宗教法人 日本ルーテル教団 東日本大震災支援対策：  
健康手帳電子化システムおよび拡張版開発支援、健康手帳等電子化システム機材導入経費
- タケダ・いのちとくらし再生プログラム：  
福島県の児童養護施設の子どもと職員の健康状況把握 フェーズ2：  
低線量被曝モニタリング検査とデータ蓄積のための健康手帳電子化システム拡張版開発と普及
- 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会：  
個人被ばく線量測定サービス着用支援（第3期）

## 2017年

- 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム 共に生きるファンド：  
児童養護施設の入所児童・卒園生の甲状腺エコー検査事業
- 特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) 福島基金：  
児童養護施設の尿中セシウム検査実施
- 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業(WAM 助成)：  
児童養護施設受入者への健康手帳贈呈事業
- 宗教法人 日本ルーテル教団 東日本大震災支援対策：  
健康手帳電子化システムおよび拡張版開発支援、データ整備事業
- 公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会：  
個人被ばく線量測定サービス着用支援（第3期）

## 施設と支援者のマッチング実績

年度	施設	マッチング内容	支援団体・支援者
2012	青葉学園	食品放射能測定室	JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)
2013	福島愛育園 堀川愛生園	食品放射能測定室	JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)
	いわき育英舎	放射能測定室内装工事	高山 地球と暮らしを考える会
	福島愛育園	放射能測定室 補給工事	鶴田くに奨学金beyondXプロジェクト
	福島愛育園	防油堤放射線対策コンクリート 基礎取替工事	日蓮宗あんのん基金
2014	白河学園	屋外遊具取り換え	難民を助ける会 AAR
	いわき育英舎	学習支援の講師など	ゴールドマンサックスSCJ 子ども貧困対策
	いわき育英舎	学習支援の講師など	日蓮宗あんのん基金
2015	いわき育英舎	パソコン(健康手帳用)	良知活動振興財団
	いわき育英舎	遊具、本棚、学習支援	ジャパンプラットフォーム
	いわき育英舎	カーテン	カリタスジャパン
	いわき育英舎	仮園舎故障したトイレの修繕費	アニーファント
	青葉学園	食品放射能測定器校正費用	JOCS(日本キリスト教海外医療協力会)
2016	堀川愛生園 いわき育英舎 青葉学園 福島愛育園 アイリス学園	食器	三義漆器店 いわき育英舎：関係者からの寄贈
	いわき育英舎	放射線線量計Rad Eye G10 校正費用	個人
2017	いわき育英舎	学習支援の講師など	個人
	青葉学園	食品放射能測定器校正費用	個人
	森の風学園	すこやか日誌用サーバー等	ドイツ IAIDOKAY
その他	青葉学園	除染、改修工事 2011年～	個人、国際婦人大使教育機関
	いわき育英舎	建築募金 2013年～	ドイツIAIDOKAY、国際婦人大使教育機関
	堀川愛生園	建築募金 2012年～	ドイツIAIDOKAY、個人



ANNIVERSARY



防疫薬剤・医薬品・医療器具・健康管理システム  
健康機器・介護用品・総合ギフト 卸・小売

# 福味商事株式会社

〒969-1128 福島県本宮市本宮舘町161-2

TEL 0243-34-2328

FAX 0243-33-2086

共に生きるために since 1992

## (有) ネパリ・バザール

ネパールでの物づくりを通して、人々の仕事の機会を創出し、収入向上による自立を支援しています。2011年3月11日の東日本大震災の被災地支援も続け、気仙地域に伝わる椿油など、地元の素材を活かした商品の製造販売による地域復興にも取り組んでいます。すべて、顔が見える安全で安心な商品です。



## NPO法人ベルダレルネーヨ

ネパリ・バザールの福祉プログラムとして、ネパールの女性の自立と子供たちの育成支援、生産者の緊急支援、少数民族地位向上の為の活動、ネパール大地震の支援活動等行っています。3.11以降は国内での様々な被災地支援活動を行い、飯館村の方々の温泉ご招待や、被災地を継続的に訪ね、交流を深めるツアー等企画しています。



<http://verda.bz>

【お問合せ先】横浜市栄区小菅ヶ谷 4-10-15  
TEL:045-891-9939 common@nbazaro.org

《活動を応援してください!》 ●ネパールや東北の大自然から届く食品や、天然素材の衣類・雑貨など、お手にとってみてください! 商品カタログございます。●NPO法人ベルダレルネーヨのサポート会員や、活動へのご寄付●ボランティアやツアーなど、活動に参加しませんか?



山のハム工房ゴバルは  
標高600Mの静かな  
山の中にあります。

1980年から私たちは  
ここでハム作りを  
続けてきました。

生きるとは分かち合うこと。



# GOBAR

〒509-7831

岐阜県恵那市串原 3777-3-1

TEL 0573-52-2085

FAX 0573-52-2712

MAIL [info@gobar.jp](mailto:info@gobar.jp)



LIVING IS SHARING

<http://gobar.jp/>

ザイタクシンリョウゼロヒヤク

0歳～100歳までの在宅医療と地域連携を考える専門雑誌

0100

ゼロヒヤク

在宅新療

THE JAPANESE JOURNAL OF HOME CARE MEDICINE FOR ALL AGES



へるす出版

毎月  
20日  
発売!!

地域包括ケアシステムと在宅医療、  
0歳～100歳までのすべての方を対象とする在宅医療、  
これからの時代に向けた  
新しい在宅医療を考える専門雑誌です。

在宅医・訪問診療医  
訪問看護師を中心に、  
関連職種がいま知るべき  
在宅医療の実践を、  
必須知識やトピックを交えて  
毎号お届けします!!

定価(本体2,100円+税)  
B5判/96ページ

お得な 定期購読受付中!!

本体価格2,100円+税×12ヶ月  
=25,200円+税



年間購読特別料金  
=24,000円+税

Twitter・Facebookで最新情報随時お知らせ中

〒164-0001 東京都中野区中野2-2-3  
TEL 03-3384-8035 FAX 03-3380-8645  
<http://www.herusu-shuppan.co.jp>

Twitter



Facebook



# NPO法人創立5周年記念誌発刊 おめでとうございます

2020年東京オリンピック・パラリンピック開催の年、弊社は創業100周年を迎えます。  
これまでの100年に感謝し、つぎの100年に向けてチャレンジします。

次の歴史の一步、夢をかたちにするために、社員一同邁進し続けます。



大原美術館



倉敷中央病院



淀橋教会

## 会社概要

- 事業内容：建設工事の設計・施工・監理  
不動産の売買・斡旋・賃貸  
地域開発・都市開発に関する  
事業の企画・調査・設計・監理
- 資本金：46億94百万円
- 代表者：代表取締役社長 藤木 玄三
- 従業員数：360名(平成29年4月1日現在)
- 創業：1920年11月23日

未来へ — 安心を創る



## 株式会社 藤木工務店

〒160-0004 東京都新宿区四谷4丁目16-3

株式会社 藤木工務店 東京支店

電話 03-3357-1611

# しつけ椀

日本初!  
美しい  
持ち方は  
宝物。



SITSUKE WAN

キレイな持ち方が自然に身につく器

お椀の持ち方が  
自然に身につく。

株式会社 三義漆器店

PHONE. 0242-27-3456 FAX. 0242-28-2252

〒965-0844 福島県会津若松市門田町大字一ノ屋字土手外1988番3

http://www.owanya.com

E-mail: sanyoshi@owanya.com

伝統を止めない。新しい伝統をはじめ。

SanYoshi

SINCE 1935, JAPAN

Bright Design, Everyday.



極久里珈琲

Agri Coffee

よいコーヒーを  
お届けします。

極久里珈琲

〒960-8071 福島市東中央3丁目20-2

TEL. 024-563-7871

FAX. 024-563-7887

URL. www.agricoffee.com

## 株式会社 アクトエンタープライズ

### ■通信・情報設備の設計施工・販売・保守

IP交換機・ビジネスホン・複合機・LANシステム等

### ■防災設備の設計施工・保守

消火設備・自動火災報知器設備、ナースコール設備、

放送・共聴設備等

## 医療法人財団 愛泉会

理事長 井手宏 院長 太田信吉

地域に根ざした医療福祉に携わっています。共に働いてくださる  
内科、外科、ホスピス医師、看護師を求めています。

国際医療支援室も活動しています。http://ahiimr.wix.com/ahiimr

愛知国際病院

訪問看護ステーションえまい

老人保健施設愛泉館

指定居宅介護支援事業所愛泉会

日進市東部地域包括支援センター

住宅型有料老人ホームカナン

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-3

代表電話:0561-73-7721 URL: <http://aisen-kai.jp/>

名鉄豊田線黒笹駅より徒歩12分

## 木南会計事務所

き なみ まこと

税理士 木南 誠

事務所 〒102-0073 東京都千代田区九段北4丁目1番5号

市ヶ谷法曹ビル 3階305号

電話 03-3262-7001(代表)

ファックス 03-3262-7405



かけはし倶楽部は福島の子供  
たちを応援しています。

かけはし倶楽部は、富士ゼロックス東京㈱と  
富士ゼロックス首都圏㈱の社員によるボラン  
ティア団体です。会員で構成する委員会にて  
運営しており、積立金による寄付やボラン  
ティア活動を行っております。



Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。



## NPO 法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会



### 役 員

#### ○共同代表

澤田 和美 福島事務局長  
丸 光恵 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授

#### ○副代表

塩飽 仁 東北大学大学院 小児看護学分野 教授

#### ○理 事

神戸 信行 青葉学園 常務理事

#### ○監 事

齋藤 久夫 元福島愛育園 施設長

## 軌跡

### 1人1人の想いが繋がった5年間の記録

---

	2017年12月発行
編集	さわだ かずみ まる みつえ 澤田 和美 丸 光恵
編集補佐	永井 富美 鎌田 千瑛美
発行	特定非営利活動法人 福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会
福島事務所住所	〒960-8055 福島県福島市野田町 6丁目 4-74-5 メゾンオーブ C203
Web	<a href="http://www.fukujidou.org/">http://www.fukujidou.org/</a>
印刷・製本所	キング印刷株式会社

